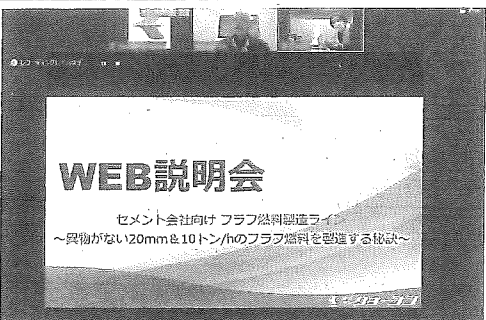


光州産業との「ONLINE
説明会」実施の様子



理を手掛ける光州産業(川崎市)の担当者は、説明会に参加し、「他社との情報交換や、今後の業界の動向を知ることができ、新たな設備計画策定の参考になった」と感想を述べた。

リョーシンは、多種多様な廃棄物に対応可能な装置を取りそろえ、混合廃棄物の選別ライン構成装置群をワンパッケージで提供するなど、提案型のサービスで実績を持つ。同社担当者は、「コロナ禍においても、必要な情報をタイムリーに届けたいとの思いで取り組みを始めた。今後、団体向けのオンライン施設見学会などの実施も計画している」と話している。

説明会の参加申し込みは、ホームページの専用サイト (<https://www.ryoshin.co.jp/infosession1st/>) で、随時受け付けている。

「ONLINE説明会」をスタート

「合同」個別」で毎日開催

リョーシン コロナ禍での新たな試み

環境機器メーカーのリョーシン(富山市、高野治社長、☎076・465・6050)は3月22日から、コロナ禍における新たな試みとして、「ONLINE説明会」の取り組みを開始した。複数の企業が参加する「合同説明会」と「社単独で開催する「個別説明会」の2種類の形式を設け、双方向にコミュニ

ケーションできるウェビナーセッションを用い、直接情報を得ることが難しい状況の中、それを補うことができた」と好評を博している。

合同説明会は、毎日2回、各1時間程度で、その回ごとのテーマに沿って開催している。同社の各種機器やリサイクルプラントを紹介し、実際の導入事例を元に、いかに効率的な